



第52回オープンセミナー
技術課題解決促進事業

廃止措置作業現場段差用スロープの検討・試作

令和5年5月23日・24日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

高速増殖原型炉もんじゅ 廃止措置部

設備保全課 須見 大

1. 背景

- 今後もんじゅは設備の解体・撤去のフェーズに移行する
- 解体・撤去作業にて発生した廃材の搬出をする必要があるが、もんじゅの各建屋は堰や段差が多数あり、不陸な個所が多数存在する
- スロープの設置がされているが、干渉等によりスロープの無い箇所も多い
- 廃材等の移動に際し、堰の有無を考慮し、コースを検討する必要があるが、負担の軽減および廃止措置作業が安全に行うことができるよう仮設スロープの配備が望まれる

2. 課題の整理

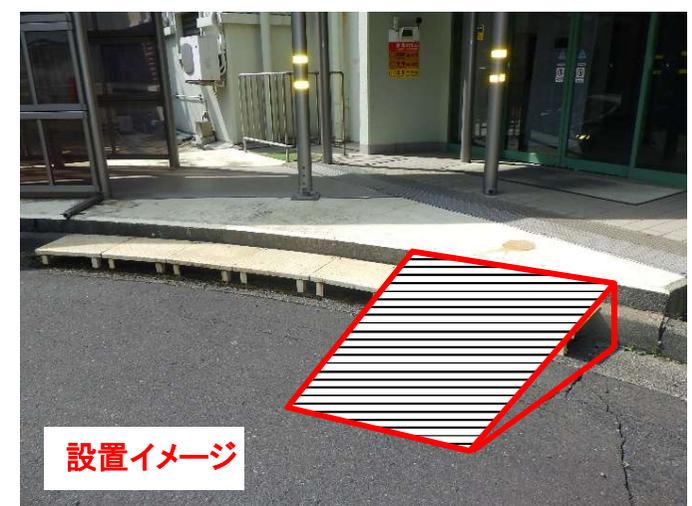
- (1) もんじゅの廃止措置作業において廃材等を台車で運ぶニーズが高まっている
- (2) もんじゅでは堰・段差が多数あり、台車の移動が制限される
- (3) 干渉によりスロープを常設されていない場所も多数ある



段差 約15cm



段差 約20cm



段差 約30cm

3. 試作の概要(必要条件)

廃止措置作業に適用可能な仮設スロープの試作

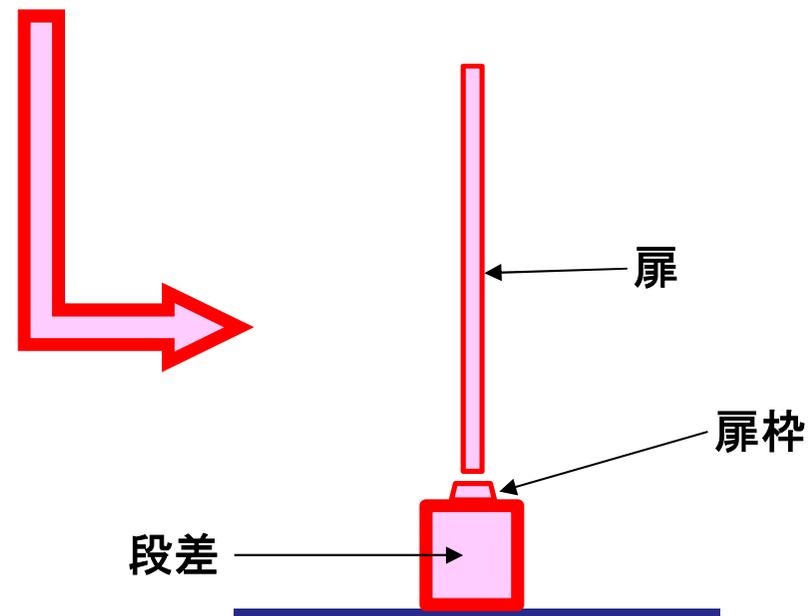
- (1) 台車及び作業者が通行可能である
- (2) 分割・又は折り畳みが可能で可搬性に優れる
- (3) 作業者が容易かつ安全に設置できる
- (4) 柔軟に高さの変更が可能である(約10～30cm)

前項の課題について対応するスロープを試作し、他のスロープにも展開できるか評価する。

4. 留意事項その他

その他取り込みたいニーズ

- (1) スロープが設置個所からずれにくい仕組み
- (2) 接地面が平滑でなくても調整が可能



ご清聴ありがとうございました。